

災害派遣ボランティア活動報告

宮崎支部 岩切 百希子

<第18班> 日程:5/17(火)~5/22(日)

- 1日目 17:00 日本薬剤師会(東京四谷)にて活動打ち合わせ。
(5/17 火) 今回宮城に派遣される先生方との顔合わせ。
(派遣場所:気仙沼4名・石巻2名・南三陸2名)
- 2日目 AM 5:00 JALシティ四谷のロビーに集合。直接各々の派遣先に向けて出発。
(5/18 水) 高速道路は波打っているとの報告があったが、すでに補正されており問題なく現地(気仙沼)に到着。
途中、一関ICを降りた辺りでガソリンを満タンにする。
12:00 気仙沼市民健康管理センター「すこやか」に到着。
気仙沼派遣者で担当地区を決定。その後前任者から引継ぎを行う。
田代会長、櫻間先生(熊本)・・・救護所調剤
米北先生(山口)・・・・・・・・K-WAVE(避難所)
岩切(百)・・・・・・・・大島(離島)の仮診療所
17:00 DMATミーティングに参加。
17:30 終了
宿泊場所:かどや旅館(「すこやか」から車で5~10分程度)
電気○ ガス○ 水道○ お風呂○(近くに銭湯があり)
トイレ△(水洗ではなく旧式の為、匂いがひどい)
夜は外食がメイン(近くに居酒屋あり)
*地元民が多いため行動に注意が必要。
朝食・昼食は、近くのコンビニで調達。
寝具は布団一式あり。寝袋不要。
- 3日目 AM6:00 起床 朝食
(5/19 木) 7:50 「すこやか」集合
気仙沼 大島にはフェリーで移動の為、集合時間が若干早い
フェリー乗船場までは聖マリアンナ医大の車で移動
聖マリアンナ医大より
小野寺Dr、長田Dr 医師2名
(午前中のみDr2名、薬剤師1名、看護師2名参加)
東京薬剤師会より
薬剤師1名 吉野先生(この日で終了)

気仙沼からロジ(事務業務)1名 通称:けんちゃん

午前中:医師4名、薬剤師3名、看護師2名、ロジ1名 計10名

午後:医師2名、薬剤師2名、ロジ1名 計5名

8:30 フェリーに乗船 約30分で現地に到着

9:00 大島着 大島の対策本部に移動

本部長(白幡さん)、副本部長(斉藤さん)にご挨拶

1日の行動予定や緊急連絡事項、打ち合わせなどを行う。

本部長、副本部長も患者さんなので、毎朝血圧を測定→記録する。

その後、徒歩で気仙沼市大島小学校へ向かう。(3~5分程度)

9:30 到着次第、診察や調剤スタート

現在の傾向として、急性期→慢性期に移行している。

また、5月いっぱい仮診療所が閉鎖になる為、かけこみ受診が多い

主な業務・・・

① 補充した薬の整理や在庫の確認

(調剤でなくなりそうなもの、不足したものは逐一書き出す。)

*絶対に必要なものはその場で本部に確認。準備してもらおう事!

患者さんが取りに来なかった薬の整理

② 調剤業務 この日の処方箋枚数・・・29枚

調剤室は診療所内にあるので、Drの診察内容を聞いて在庫を確認しながら、Drの処方の確認・処方の提案を行う。

調剤は処方箋を受けとってから行った。

(処方薬に関して、在庫のないものは類似薬に変更)

薬袋作成

また、Drから処方薬の選択・用法・用量(小児・成人)・薬効など、

薬に関して様々な質問があるので、随時対応していく。

③ 昼食

診察室で昼食。

だいたい12~13時の間に患者さんの波も収まる。

④ 午後診療

朝ほどではないが、ポツポツ患者さんが来る。

診察→調剤→投薬の流れがスムーズに行われた。

<調剤業務以外に関して・・・>

薬のみ希望の患者さんに関してはDrに代わり対応する。

紹介状の表書きなどの作業もDrに代わって行う。

受付や血圧測定なども手が足りないときには行う。

この日は変形性関節症の患者さんが診察を受け、注射を希望された為、その場で実際の治療を見ることができた。
また、解体作業中に怪我した患者さんに対して、怪我が深かった為、テタノブリンの注射を行っていた。

14:45 診察終了

この日はDrのご好意で大島の名所である亀山に登頂。
今回被害を受けた気仙沼や宮城県の海岸沿いを一望した。

15:30 フェリー乗船

16:30 「すこやか」到着

到着後は、翌日持つて行く医薬品、OTC、医療材料などの収集。
その他、必要そうなものをまとめて準備しておく。

17:00 DMATミーティング

18:00 解散→旅館へ

22:00 就寝

4日目 AM6:00 起床 朝食

(5/20 金)

7:50 「すこやか」集合

聖マリアンナ医大より

小野寺Dr、長田Dr 医師2名

東京薬剤師会より

薬剤師1名 矢野先生

気仙沼からロジ(事務業務) けんちゃん

医師2名、薬剤師2名、事務1名 計5名

また、本日は肺炎球菌のワクチン接種の日でもあった。

看護師3名が担当(事前予約件数3名)

8:30 フェリーに乗船

9:00 大島着 大島の対策本部に移動

1日の行動予定や緊急連絡事項、打ち合わせなどを行う。

本部長、副本部長の血圧測定→記録

その後、徒歩で気仙沼市大島小学校へ向かう。

9:30 診察や調剤

この日は地元の新聞に、小野寺Dr特集の記事が出ていた。

その効果があつてか、患者さんの数も多かった。

主な業務・・・

① 補充した薬の整理や在庫の確認

② 調剤業務 この日の処方箋枚数・・・40枚

診察→調剤→投薬スムーズに行う。

この日も変形性関節症の患者さん1名→注射

口の中を切った女の子→ワセリンで対処

③ 昼食

診察室で昼食。

④ 午後診療

昼食後、診察終了まで患者さんが診察に来ていた。

一方、ワクチン接種は3名の事前予約者に対して、最終的に接種

した患者数は280人と大幅に超え、17:00過ぎまで対応に追わ

れた。との事。

15:00 診察終了

15:30 フェリー乗船

この後、気仙沼に到着すると、小野寺Drが自分の家があった所、

その周辺など被災地を車で案内してくれた。

16:50 「すこやか」到着

17:00 DMATミーティング

18:00 解散→旅館へ

21:00 宮城県への報告書作成(気仙沼・大島地区)

22:00 就寝

5日目 気仙沼最終日

(5/21 土)AM6:00 起床 朝食

7:50 「すこやか」集合

この日は大島に行く予定ではありませんでしたが、振り分け担当者

の方に希望して、午前中のみ同行させてもらった。

聖マリアンナ医大より

小野寺Dr、長田Dr 医師2名は午前中のみ(半日)

引き継ぎで土田Dr 他医師2名、看護師2名(全日)

ロジ1名(全日)

東京薬剤師会より

薬剤師1名 矢野先生(全日)

午前中:医師5名、薬剤師2名、看護師2名、ロジ1名 計10名

8:30 フェリーに乗船

9:00 大島着 大島の対策本部に移動

本部長(白幡さん)、副本部長(斉藤さん)にご挨拶

1日の行動予定や緊急連絡事項、打ち合わせなどを行う。

本部長、副本部長の血圧を測定→記録する。

その後、徒歩で気仙沼市大島小学校へ向かう。

9:30 診察や調剤スタート

この日は、大島小・中学校合同の運動会があった。

診察の患者さんもいたが、ほとんどは運動会で怪我した方の
手当てが中心であった。

① 補充した薬の整理や在庫の確認

② 調剤業務

ほとんどが怪我した方の手当てであった。

なお、小学校の先生方のご好意で、運動会に参加させていただく事
になった。(大人が分かれて行う綱引きに飛び入り参加)

12:00 フェリー乗船

小野寺Dr、長田Drと一緒に帰島

12:45 「すこやか」到着

田代先生方と合流するまでの間、小野寺Dr、長田Drに同行。

ボランティアで熱中症になってしまった方の診察に同行して、
冷えピタ、OS-1を持って行く。

その後、各ボランティアの方々に今回の活動の話を聞いた。

13:30 気仙沼派遣者集合→帰路へ

昼食はコンビニで調達して車の中で食べた。

東北自動車道は、行きに比べて若干波打っている所があった。

土曜日の週末に重なっていたので、東京に入る辺りで渋滞。

ETCがなかった班は30分くらい出口で足止めされていた様子。

また翌日に、韓国の大統領、中国の国家主席の参加する会議が
JALシティホテルの近くで行われる為、警察が厳戒態勢であった。

21:30 近くの居酒屋で、初日に顔合わせした先生方と食事会

各々の活動報告、感想などを言い合った。

パソコンを持参した先生がいた為、現地写真を見せ合った。

24:00 就寝

6日目 帰路へ(東京→宮崎)

(5/22 日)

【補足】

●準備していくもの

自分のボールペン、メモ用紙は必要。「今日の治療薬」は診療所に1冊あります。
ゴム、薬袋は十分あるので不要。昼ごはんは忘れても聖マリの先生が用意してくれています。

●受付に関して・・・

診察に来た方に名前を記入してもらいます。そこから前回のカルテを準備、新患ならカルテを作成し、予め相談内容などを聞いておき付箋にその内容を貼ってDrに渡します。また、必要なら血圧を測っておきます。

●処方箋に関して・・・

2枚重ねのカーボン複写式になっており、原本は本部へ、複写分は診療所でファイルに保管します。

●Drの質問事項・処方薬の変更事項について・・・

診察室・調剤室は同じ場所にある為、Drの診察内容が聞こえます。大体の処方をつかんだ後は、お薬があるか確認して、ないものはDrが処方箋を書く前に代替薬に変更していただきます。

処方後に代替薬に変えたい場合には、Drに報告して処方箋を訂正します。

(残り少なくなった薬は、予めDrに報告して代替薬を伝えておくと後が楽です)

Drが患者さんに出すと言って処方を書き忘れてしまう事もある為、その都度患者さんに確認して追加します。特に湿布の処方を忘れるので、患者さんにテープorパップの希望を聞いて追加します。

また、服薬指導中に足りないと言われたら、カルテを確認して追加します。(Drにも報告して許可とサインをもらう)

Do処方に関してはDrが忙しいときには処方箋を書いておき、Drが処方薬確認→サインをするだけまで段取りしておくDrもスムーズに業務が運べます。

Drは内科医でなかった為、風邪の処方では咳止めの使い分け(軽めor重め/頓服or連日の処方)。血圧の薬の新たな追加に関しては、ARBorCa拮抗薬どちらが良いか。軟膏の強さや使用部位の使い分け、症状に対してどの塗り薬が良いか。睡眠薬の選別(患者さんの睡眠状態に対して)。抗不安薬の選択や使用(連日がいいか、頓服がいいか)。下痢止めにはどの薬が良いか。抗生物質・抗ウイルス薬・抗血栓薬・気管支拡張薬の用法・用量など、の質問がありました。

●小児の薬に関して・・・

コロナールや抗生物質(DS等)は、体重に合わせて分包品が準備してありました。

●薬袋に関して・・・

災害時の薬袋が十分に用意してあります。1袋で何回も使いまわしができるようになっています。
頓服用もありますが、埼玉医大のものだったので使用前に必ず埼玉医大名前を消します。

●紹介状に関して・・・

中の文書はDrが準備します。それを受け取ってから表書きを行います。紹介先は各々で違うので間違いのないように書いて、ホッチキスで止めます。(のりが無い為)

【感想】

ボランティアに派遣される前、やはり不安と緊張で一杯でした。自分が薬剤師として出来ることが本当にあるのか？それが常に頭にありました。それでも、やれる事は何でもやろうと思い、気仙沼に向かいました。

高速道路はきれいに補正されており、気仙沼に到着しても「すこやか」本部まで地震や津波の影響を感じませんでした。しかし、引き継ぎの福崎先生(鹿児島)に港を案内してもらった時にはすごくショックを感じました。まさにテレビで見た被害が目の前に広がって、ひどい匂いがより一層衝撃的でした。過去に行った先生方から「天国と地獄だよ」とは聞いていましたが、本当にその通りだなと感じ、天災の怖さを知りました。

2日目は大島に行けなかったので、K-WAVEの避難所に同行させていただきました。避難所を見るのは初めてだったので、すごく衝撃を受けました。ダンボールや卓球の仕切りで区切られただけの空間が体育館中に広がり、また、学校の教室くらいの広さに何世帯もの避難民が生活していたのを目の当たりにして何と言っていりか分からず、あいさつさえろくに出来ず通り過ぎてしまいました。

3日目からの大島では、前日の反省もあり、少しでも現地の人に元気をあげたいと思っていましたが、それでも緊張していた私を暖かく受け入れてくれたのは、他でもない現地の方々でした。「宮崎から来たのー？大変だったねー。ありがとうね。」と声をかけてもらい、逆に元気をもらいました。また、患者さんや小学生たち、ロジのけんちゃんから被災したときの話を聞かせてもらい、本当にショックをうけましたが、それでも頑張っている現地の皆さんを見て、“絶対にまた復興する！そしたら、絶対にその町を見に行こう！”と思いました。

今回、大島で同行した聖マリアンナのDr方は薬剤師をすごく必要としており、「看護師さんよりいってくると助かる」と言ってくださいました。診察はDrの専門外の患者さんがほとんどなので、以前は本を開いて処方薬を考えないといけなかったようです。その状態の中に薬剤師が加わることで処方相談や代替薬の選択、用法・用量の確認がスムーズにでき、診察が効率的にできるようになったとおっしゃっていました。私の普段の薬局業務がそのまま役に立てたのだなーと思うと、薬剤師としてすごく誇りに思いました。

今回の気仙沼ボランティアを通して、人間的にも、また、薬剤師としても成長する事ができたのではないかと感じています。私は現地の方々や同行した先生方みんなに支えられてこの3日間を過ごす事ができました。私がみなさんの役に立てたかは分かりませんが、それでもこの機会を一緒に過ごして下さった皆さま、また、この機会を与えて下さった皆さまに心から感謝します。

ありがとうございました。